

09年1月9日

MLF利用者懇談会分科会代表・幹事会合同会議議事録

日時：09年1月6日15:00～17:00

場所：京都大学東京事務所

出席者：

福永会長，小池洋二，柴山充弘，下村浩一郎，中西友子，大山研司，西島和三
鈴谷健太郎，杉山正明，林眞琴(敬称略，会長以下は順不同)

議事内容：

1) 分科会の活動方針および活動計画

(a) 林幹事および杉山代表の案を元に議論。

(b) 方針案については以下の意見あり。

(1)中性子産業利用推進協議会や茨城県中性子利用促進研究会と連携や，JRR-3
ならびにSP8との連携も推進することとし，表現としては，「関連団体や施設
と連携して活動する」との文言を入れる。

(2)懇談会としてJ-PARCセンターだけでなく，場合によっては，文部科学省にも要
望書を提出すべきであり，それを方針に明記することにする。

なお，会則を確認した結果下記に示すように，提出先には「文部科学省」との具
体的な記述はないため，会則記載に従って要望の提出先を追記することとする。

(会則 第3条 2に「施設利用・将来計画におけるユーザーの総意（要望・見解・
立案等）の取りまとめおよびJ-PARCセンターならびに関連諸機関への提言」と
あり，要望などの提出先は文科省との具体的な表記はなく，「関連諸機関」への
提言とあるため，方針案もそれに沿って修正する)

(c) 活動計画について以下のような意見あり。

(1)SP8では協議会の活動が中心で，それに懇談会がぶら下がっている。MLF
懇談会も予算の問題と，活動の広がりやを考慮して，協議会や茨城県研究会と連
携できるものは連携を強化して活動すべきである。ただし，連携して合同で研
究会などを開催するかどうかは各分科会で決定する。

(2)研究会開催頻度は「少なくとも1回」でよしとする。また，中性子科学会，中
間子学会あるいはJ-PARCシンポジウムなどで特別セッションを設けることで代
替とすることも認める。

(3)JRR-3との連携も考慮すべきである。

(4)中性子の夏の学校にミュオンをジョイントさせる，また，J-PARCの利用講習会
を開催すべきとの意見があり，林幹事より，茨城県として，J-PARCセンターに
対して，トライアルユース制度の整備と講習会の開催を申し入れるとの説明が
あった。

(5)J-PARCの中性子実験装置の仕様，周辺機器などの詳細な情報を会員に公開すべ

きである。これに関連して、J-PRAC シンポジウムや中間子科学会年会、中性子科学会年会などで装置に関する特別セッションを設ける。

(6)J-PRAC 利用開始記念式典が7月6日に水戸で開催されるので、その時に何らかの利用者懇談会全体の集会を開くことを予定する。

2) 中性子産業利用推進協議会および茨城県中性子利用促進研究会との連携について

(1)林幹事から協議会と茨城県研究会との連携について説明あり。議事内容は1)を参照

(2)柴山幹事から研究会をいばらき量子ビーム研究センター(IQBRIC)で開催したいとの申し出があり、林幹事から無料で使えるので積極的に利用して欲しいとの回答あり。

3) その他

(a)MLF利用者懇談会の予算執行について

(1)予算が限られている中で、協議会や茨城県研究会との連携により、懇談会からの出費を抑えつつ、できるだけ活発に活動することとすることになった。

(2)活動報告書については、各分科会からA4-1枚程度の報告書を提出して貰い、バインドする程度で纏めることとする。

(b)J-PARC センターとの定期協議について

(1)MLF利用者懇談会としての意見や要望を伝える場を年1回設けることとする。

以上